

寒さ吹き飛ばし！熱さ全開！

仙北市の冬まつり

歴史を照らすかがり火



2月2日、「白岩城址燈火祭」が白岩地区の特設会場で開催されました。このお祭りは、中世と近世の白岩の栄華を光で再現するもので、今年で18回目を数えます。雲巖寺の鐘の音と共に、中世白岩城址の館山参道に設置されたかがり火500個と近世平城跡に設置されたミニかまくら300個に白岩小学校の児童たちが火を灯すと、辺りは幻想的な光景が広がりました。主会場では、ひでこ節踊りや綱引き大会のほか、火振りかまくらも行われ、賑やかな雰囲気になりました。

冬まつりの後半は次号で紹介

夜空に舞い上がる紙風船

2月10日、「上桧木内の紙風船上げ」が西木町紙風船広場を会場に開催されました。

18時の一斉打ち上げでは、会場全体がカウントダウンの声に包まれる中、8つの集落から紙風船が打ち上がり、真冬の夜空に浮かぶ幻想的な光が大勢の方々を魅了しました。

紙風船は、願いごとや美人画などが描かれたもののほか、高さ11mの巨大なものやサイコロ型のものなど約100個あまりが打ち上げられました。

また、会場では集落の皆さんによる屋台をはじめ、ステージではお囃子と手踊りの披露やシンガーソングライターの浅羽由紀さん（静岡県藤枝市出身）など3人の歌手の方々が歌声を披露しました。



18時の一斉打ち上げ。紙風船が次々と夜空に吸い込まれていく光景は幻想的。

火の輪に願い込めて



角館町に古くから伝わる小正月行事「角館火振りかまくら」が2月13日、桧木内川堤沿いの桜並木駐車場で行われました。会場では、五穀豊穡や無病息災など1年の無事を願い、たくさんの火の輪ができ、辺りは幻想的な光景に包まれました。今年は600個の炭俵が用意され、訪れた観光客などが回し方を教わりながら火振りかまくらを体験していました。翌14日には、角館町の各所で火振りかまくらが行われ、子どもからお年寄りまで火のついた炭俵を回す光景が見られました。

まちづくり日記

No.146

『ひとまわり大きな心配』

仙北市長 門脇 光浩

「ひとまわり大きな心配」を説明します。いえいえ、洋服のサイズではありません。大げさですが、1人と社会の関係を双方向に見直そうという私案です。ここでいう心配は、気にとめるとか支えるとかという意味で使っています。

これまで、国は県を心配し、県は市町村を心配し、市町村は地域を心配し、地域はそれぞれの家族を心配し、家族は1人を心配する…、そんな片方向の心配が強かったような気がします。大きな存在が小さな存在を守るとか、量が質を支えるみたいなイメージです。

でも、今はそんな考え方では、地域も公共も立ち行かない現状です。その原因は、人口減少・高齢社会・経済減速などが思い当たります。

やはり、心配は双方向が原則です。「1人はみんなのために、みんなは1人のために（三銃士より）」のこともありません。これまで意識が弱かった方向性、つまり、1人は家族を心配し、それぞれの家族は地域を心配し、地域は市町村を心配し、市町村は県を心配し、県は国を心配する…。この一方のボリュームを上げ

れば双方向が成立し、抱える課題の解決にも有効だと考えています。

そう言った近未来の社会はどんな風かという、例えば、〇さんは1人っ子同士の結婚だったので、配偶者の家族やその親類を支えています。〇さんは町内で1人何人分もの役割を担い、同時に公共の委員も引き受け地域経営に熱心です。〇市は財源が乏しい中で独自政策を維持し、県と市で重複する業務の洗い出しで支出を抑えます。〇県は保有する資源を活用し、企業移転や人口集中の緩和を図るなど国家課題にも取り組みます。

「ひとまわり大きな心配」は、これを始めることで、今まで以上の責任と義務が生じます。でも、面倒がっていると家族も地域も公共も現状を改善するエネルギーが不足し、結果、それが自身に返ってくることは予想に難くありません。それに気づいている人も大勢なのでは…。

水を川上に流すような違和感もあります。しかし、新しい元号で新しい時代が始まるうとしている今、思い切った意識の転換を行う好機到来と考えてみてはいかがでしょうか。

仙北市学校適正配置推進計画に関するお知らせ

問 仙北市北浦教育文化研究所
☎(43)3387

仙北市教育委員会では、今年度、学校適正配置検討対象校となっている、桧木内中学校および中川小学校に関して、平成30年6月から16回にわたり関係地区で意見交換会を開催し、広く住民・保護者の意見を集約してきました。それらの意見を受け、仙北市教育委員会協議会および仙北市総合教育会議などで協議を重ね、次年度以降の両校に係る学校適正配置について、次のとおりとすることを決定しました。

- ◇《桧木内中学校について》
統合については、次年度以降も継続協議事項とする。
- ◇少人数のデメリットの軽減を図るために、近隣の中学校との学校間交流を推進する。

《中川小学校について》
◇2020年4月の角館小学校との統合に向けて、両校の学校間交流および開校準備などを進める。なお、統合にあたっては、以下の3点を基本方針とする。

<中川小学校と角館小学校の統合に関する基本方針>

- 1 校舎は、角館小学校の校舎を活用する。
- 2 中川地区児童の通学環境を整備し、通学に伴う負担をできる限り軽減する。
- 3 地域に根ざし、地域との連携を重視した教育活動の継続・充実を図る。